



令和7年11月7日発行

# 学校だより

第13号

江戸川区立松江第三中学校

## ＜教育目標＞

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

この先、世の中どうなってしまうの…

校長 小澤 託

アマゾンと書いたり、聞いたりして、南米大陸の世界最大の熱帯雨林のアマゾンや世界最大の流域面積のアマゾン川を思い浮かべる人は、もはや数%しかいないのではないか。多くの人がAmazon(ネットで様々な品物を注文でき、配送までしてくれる世界的な企業)を思い浮かべ、さらにビデオや音楽も配信しているところだよねと言う人がほとんどでしょう。

そのAmazonに関連して、10月末にテレビや新聞でこんな報道がされました。

「AIによる効率化で従業員を削減！！」

米アマゾンは、従業員約1万4千人を削減すると発表しました。管理職や専門職など本社部門を中心に人員を削減。倉庫や物流などの現場のスタッフは対象外とされる。労働力がAI(人工知能)に置き換えられる例として、海外メディアで大きく受け止められました。

1万4千人。日本には人口約1万4千人の市町村は数多くあります。

1つの市町村の人口に匹敵する人が、AIによって職を失ってしまう現実が実際に起こっているのです。

生徒の皆さんのが大人になる頃には、AIはもっと進化し、今まで人が担ってきた仕事がAIによって取って代わられるということが増えるという意味です。簡単に言えば、今現在人が行っている仕事がどんどんなくなっていく、ということです。

おそらく、AIを有効に活用していく流れは世界的に広がっており、止めることはできないでしょう。裏を返せば、AIではできない職業は残っていくということです。どんな職業でしょうか？

確実に言えるのは、人を相手にした、人にしかできない職業は残るはずです。

それはなぜか？私たちが“人”だからです。様々なコミュニケーションが必要であり、その中で様々な感情が生まれ、そして、新たなものを創り出す。それは、人にしかできません！！

学校という場は、どうしても勉強するところ、と捉えられがちですが、私は様々な人とコミュニケーションを取り、様々な人と協力して生活していく力を付けるところでもあると思っています。学校行事や学年行事がある時だけがコミュニケーションが大切なわけではありません。日常生活の中で、様々な人と関わり、考え方や思いを交錯させることが大切です。2学期も残り少なってきましたが、いつも言っている3つの間。大事にしてほしいです。

## ～聞き手・語り手～

上の内容にも関わってくるのですが、何気ない一言を聞く、小さな声に耳を傾ける…という一つの行為が、コミュニケーションを取る上では重要になってきます。

聞き手は、語り手が語りたくなるように話を聞きに行く！

(hearingではなく listening)

語り手は、聞き手がいるから、語れる！！(speakingではなく talking)

能動的か受動的か、一方的か相互的か、意識を変えるだけで意味も変わってきますね。

## 【生徒の活躍】

\*秋季総体・秋季区民大会の陸上の結果を掲載いたします。お待たせして、すみませんでした！！

<秋季総体>

～男子～

～女子～

<秋季区民大会>

～男子～

～女子～

<区弁論大会>

学校代表

### ～来週は期末考查～

12日（水）から期末考查が行われます。3年生にとっては、受験に関わってくる大切な考查になります。もちろん1・2年生にとっても普段の授業の内容を理解できているか、自分の苦手なところはどの内容なのか、を確認する重要な考查です。当日までにしっかりと準備をして当日を迎えるようにしましょう。

本校は、全学年が週1回、学年通信を発行しています。それぞれの学年の通信の中（10月最終週発行）から、考查や受験に向けて気持ちの入った内容を紹介します。

**1学年**：期末考查の範囲と提出物の一覧。この中には、各教科の先生方からのアドバイスが記載されており、考查にむけてのアドバイスがびっしり！！先生方からの愛のこもったアドバイスを今からでもいいので確認して、精一杯の準備をしよう。

**2学年**：1学年同様、期末考查の範囲を掲載。そこにもこんな文言が！「2学期は行事や活動が多く、忙しい中でも一人ひとりが成長する姿がたくさん見られました。今度は、その頑張りを、学習面でしっかりと発揮する番です。テストは、「結果」だけでなく、「準備の過程」も大切です」目の前の考查から逃げるのではなく、考查に向けて可能な限りの準備をしよう。

**3学年**：面接練習や進路面談実施。「誰かに言わされたから、先輩がそうしているから、といった他の人の判断基準を軸にするのではなく、自分はこの学校に行きたい、と思える選択を行うことが重要です」ここからが本当の踏ん張り所。3年生一丸となって、みんなで突破していこう。